

開発背景



行政サービスに匹敵する福祉サービスが必要

当社の役員である錦織信雄は介護事業所を経営しており、その経営の中で施設利用者が

“自己で買い物することの喜び”が如何に大切であるかを日々実感していました。

錦織の介護施設においても“買い物代行”をサービスの一つとして行ってはいるものの、

慢性的な従業員不足などで“買い物代行サービス”の負担は重く、

利用者の要望にもスムーズに対応しきれない状況が続いていました。

一方で当社が独自に実施したアンケート(デイサービス利用者約100人を対象)によると、

「現状の買い物手段に不満がある」と応えた割合は43%にのぼり、

約半数の利用者が新たな買い物サービスへの期待が高まっているとの結果となりました。

厚生労働省の統計によると、今後「買い物弱者」はH25年の400万人からH35年には600万人に増加、

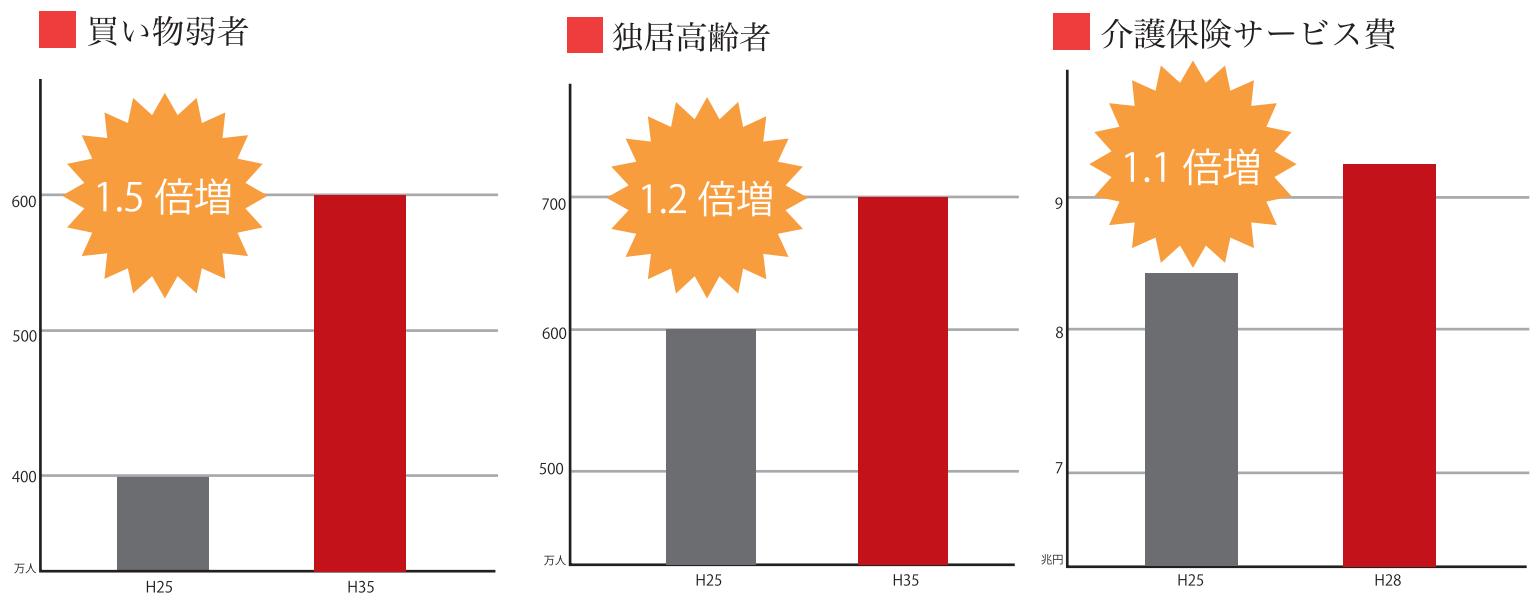
「独居高齢者」はH25年の600万人からH35年には700万人に増加との試算がでています。

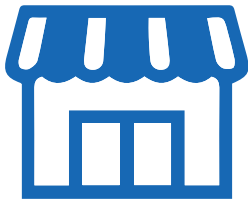
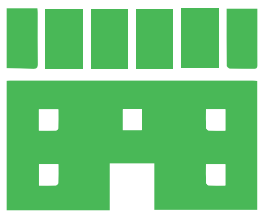
また「介護保険サービス費」はH25年の8.4兆円からH28年には9.2兆円と、超高齢社会の進行に伴い、

年々増加傾向にあります。こうした問題は今後更に顕著に表れ、今後も介護施設の利用者は増加していくと

考えられます。そこで当社は、介護施設に潜むこうした「買い物弱者」を救いたいと考え、インターネット

回線を使ったVRショッピング“SANPO(サンポー)”を開発しました。





特 徴



01

「三方よし」の精神で、全ての方々の“幸せ”を実現します。

02

「VR」と「ネットスーパー」を融合させ、「地域密着型」の新しい“ショッピング”を提供します。

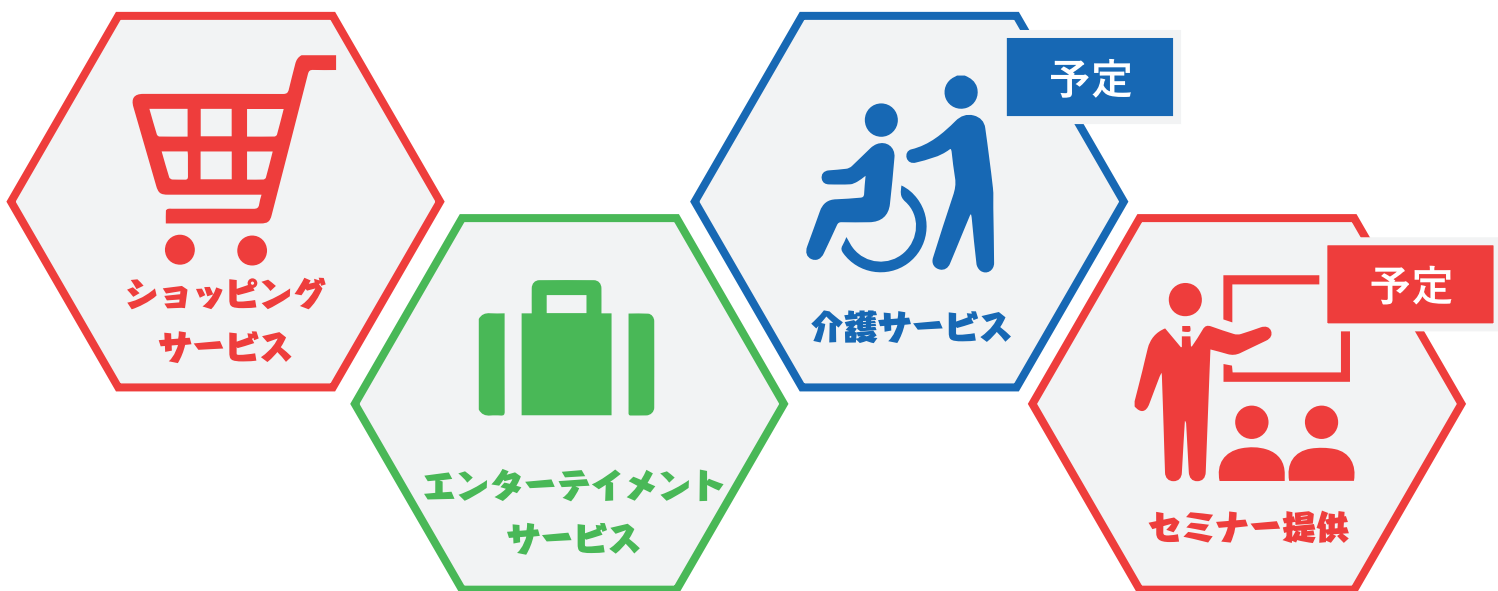
03

少数精鋭によるビジネスモデルで「買い物弱者」の新たな“カタチ”を提案します。

04

新たな配送手段を構築します。

VR をフル活用した下記サービスをご提供します



■ VR (virtual reality) とは ■

現物・実物 (オリジナル) ではないが機能としての本質は同じであるような環境を、ユーザの五感を含む感覚を刺激することにより理工学的に作り出す技術およびその体系